

ピアホームだより

2016. 3. 10

家族支援を考える

2月号で、社会福祉法人人クラブハウス町田の講演会・勉強会の企画を報告しましたが、2月6日、第3回「地域の実践から」と題してパネルディスカッションが開催されました。

今回の企画の元締めである大賀さん(理事・臨床心理士)の司会の下、パネリストには、私、まだ地域生活支援センターコラボで家族支援を行って来た3人(小川・山口・石井さん)、そして当事者2名からの快復までの道のりの発表があり、ラ・ドロン当事者と参加者全員からの発言を頂きました。

町田市議石井さんも毎回熱心に参加されて頂いています。また、東京家政学院大学の中島先生も学生実習のお付き合いから毎回ご参加頂いています。

現在進行形の内容深い発言が多く、全てを皆様にお伝えしたい気持ちですが、今回の号

ではコラボの皆様が発表された家族支援について一私自身も家族で考えるところがあり一述べたいと思います。

平成21年度厚生労働省障害者保健福祉推進事業で障害者自立支援調査研究プロジェクトが立ちあげられ、家族からの提言として以下の7つの要望がまとめられました。

- ① 本人・家族のもとに届けられる訪問型の支援・治療サービスの実現
- ② 24時間・365日の相談支援体制の実現
- ③ 本人の希望にそった個別支援体制の確立
- ④ 利用者中心の医療の実現
- ⑤ 家族に対して適切な情報提供がされること
- ⑥ 家族自身の身体的・精神的健康の保障
- ⑦ 家族自身の就労機会および経済的基盤の保障

私実感する家族の基本的問題

1. 医療に繋がられない、2. 日中行く所が無い、3. 支えが無いと地域生活が困難、4. 親亡き後をどうするかーといった問題に集約されるように思います。これらに対する新しい取り組みの一端を紹介します。

平成16年、「精神保健医療福祉の改革ビ

ジョン」において「入院医療から地域生活中心へ」という精神保健医療福祉施策の基本的な方策が示されました。

<精神障害者アウトリーチ推進事業>

未治療や治療中断している精神障害者等に、保健師、看護師、精神保健福祉士、作業療法士等の多職種から構成されるアウトリーチチームが、一定期間、アウトリーチ(訪問)支援を行うことにより、新たな入院及び再入院を防ぎ、地域生活が維持できるよう、平成23年度から試行的に実施するものです。青森県、千葉県、京都府など15府県の24施設が参加してスタートしました。

<ACTについて>

重い精神障害を抱えた人が住む慣れた場所で安心して暮らしていけるように、様々な職種の専門家から構成されるチームが支援を提供するプログラムです

ACTの現状

国立精神研究センター・伊藤順一郎先生が先陣を切って取り組んでいます。広がりを持っていけるでしょうか？

今後のスケジュール

<3月19日>アドボケイト会理事会